

NO.	【1】 条例の前文は現状などに合っていると思いますか?:合っている	【1】 条例の前文は現状などに合っていると思いますか?:合っていない	【1】 条例の前文は現状などに合っていると思いますか?:わからない	【2】 現状に合っていないとしたらどの部分ですか？	【3】 条例の前文を見直すとしたらどのようなキーワードが考えられますか？。	【4】 その他、条例の前文にご意見があれば記載ください。	【5】 条例全体を通して追加したいキーワードがあれば記載ください。
1			1		市の広報誌などを通じた町内会活動に関心を持ってもらうための周知		特にありません
2	1				生活様式の変化、適応した、持続可能な生活環境		地域の一員として、多文化共生、人を繋ぐツール、(必要なキーワード思い付いたものが殆ど条例、趣旨および解釈に入っていたので特にありませんでした。)
3			1	序論：恵庭市の資源についての説明が多く、複雑であるため端的にまちを伝えるのが望ましい 本論：恵庭市はどんなまちづくりを今後していきたいのか、目指しているものがわからない。誰にとっての願いであるのか不明瞭なためキーワードを付け加えるべき、子育てや伝統は支え合い、次世代に継承していくなどに変更した方がよい。結論：市民、行政のそれぞれの役割具体的に示してあげること親近感を持つと思う。	恵庭市、市民主導、花のまちづくり、盛ん、生活の源、恵まれたまち、選ばれる魅力的なまち、子どもからお年寄り、地域、次世代へ継承、まちの魅力を発見、情報発信、住んで良かったと思えるまちづくり、連携、誰もが主役になれる、実現、人がつながり 夢ふくらむえにわ	文章の構成をいちから、変更するべき。 【1】で述べたように序論は恵庭市の魅力ある資源を端的に述べること。本論では誰にとつてのまちづくり条例を制定しているのか追記、課題と具体策の盛り込みをする。結論で願い、市民の役割、行政の取り組みについて述べることでまちづくり基本条例とはどういうものであるのか理解できると思う。	解釈や図に追記してほしい内容・ガーデンフェスタ（を参考に）・千歳や北広島、近隣都市との連携・シビックプライド（を育てていく）・DIY都市（への発展）・スマートシティ（に向けて）・総合扶助・寄り添う・意識の向上
4			1	総合計画とリンクするものが良いと思います。「花・水・緑 人がつながり 夢ふくらむまち えにわ」支えあいに加えてつながりの面がkeywordとして良いと考えるほか、将来を想像させる方が良いのではないのでしょうか。環境面についても深める方が良いと思います。	持続可能な社会などといったSDG'sの視点。ゼロカーボンシティ宣言を踏まえた環境配慮、カーボンニュートラルなど。	総合計画でもまちづくりの目標が示されているので、そことリンクさせた見直しが良いと考えます。将来のまちの姿→まちづくりの目標となったことで、具体化されたので、抽象的な表現より伝わりやすくなると考えます。	「人と人とのつながり」「カーボンニュートラル」
5				1例に示されている点は私も気になりました。	(5年を超えないごとに見直すことを前提にすれば) 昨今のような社会情勢の大きな変化があっても、恵庭らしいまちづくりを推進していこう、といった決意を示すのはどうでしょうか。	時限的な用語（第〇期総合計画の文言など）を入れると、【2】の例のように目指すべきものに多少の差が生まれる可能性があるのでは、あまり具体的になりすぎてもよくないと感じました。	前回の会議を受けて、コミュニティのところが（第14条だけでなく第2条の定義も含めて）をもう少し深掘りできたらよいのではないのでしょうか。
6	1				特にないです		特にないです
合計	2	2	2				